

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 （政策）	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	2	名称	医療サービスと救急医療体制の充実			
主担当部	健康部		主担当課	健康増進課		部長名	吉田 雄一
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	市民が安心して暮らすため、一次医療としての休日夜間応急診療所の整備・充実を図るとともに、二次医療としての輪番体制を維持することにより、良好な医療サービス、救急医療体制を提供することを目的としている。
---------	---

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	休日夜間応急診療所については、市民はもとより、中中和地区における小児救急医療の拠点的位置づけになっています。また、救急医療の危機が叫ばれる中、市民に医療の現状を伝え、かかりつけ医の必要性や適正な受診への啓発に努めることにより、市民が求める救急時にスムーズな医療を受けることができる体制作り、力を入れて努めているところです。	医師の偏在等により、医療体制の充実が厳しい状況です。奈良県全体でも救急医療体制の整備に取り組んでいるなか、橿原市においても関係団体の理解と協力を求め、広域的な連携を視野に入れた救急医療体制を精査し、再構築を図る必要があります。
これまでの成果	本市の救急医療体制は、長年にわたり地区医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力のもとに進めており、県内でもっとも充実した体制となっています。休日夜間応急診療所は一次救急医療機関として、中中和地区の拠点的作用を担っています。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① （成果指標）	12302	14000	11926	14000		
	施策指標② （成果指標）	7268	9500	6890	9500		
	施策指標③ （成果指標）	6557	5000	6222	6000		
	施策指標④ （成果指標）						
	施策指標⑤ （成果指標）						
コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 （直接事業費）(a)	309,862	309,026	306,455	308,102		
	歳入 (b)	受益者負担額	137,757	155,517	138,647		155,519
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	46,448	46,314	48,992		47,129
	(a) - (b) = 一般財源	125,657	107,195	118,816	105,454		
	正職員	従事者数 （単位：人）	3.45	3.25	2.80		2.95
		人件費(c)	19,689	18,548	16,276		17,148
トータルコスト (a) + (c)	329,551	327,574	322,731	325,250			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	休日夜間応急診療所の位置づけは、中中和地区はもとより、奈良県内においてもなくてはならない拠点的作用を担っていると考えます。また軽症患者が二次輪番病院を直接受診することなく休日夜間応急診療所を受診するように働きかけることにより、二次救急輪番病院の負担軽減につながるものであり、医療の適正な流れに向けて効果があると考えます。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	市民が安心して生活するために、急病の患者に対して、病院等の診療時間外に医療を提供する体制をつくることは重要であり、貢献度は高いと考えます。				

6. 施策の課題

この施策の課題	休日夜間応急診療所は、小児救急医療の中中和地区における拠点的位置づけをされている状況であり、今後の体制についても近隣市町村を中心に県内全体で小児救急の課題を検討する必要があります。また、一次救急の対象となる軽症患者が、二次・三次救急病院に初診で受診したり、救急車を利用する等で、医療機関の負担が増大している現状があります。市民の皆様が適切に医療機関及び、休日夜間応急診療所を受診していけるよう、救急医療に関する正しい知識と受診方法等の啓発を継続して行っていく必要があると考えます。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	橿原市は、医療機関数も充実していると考えますが、一次救急医療として休日夜間応急診療所の充実及びかかりつけ医をもつ必要性や医療機関の適正利用のあり方について啓発に力をいれる必要があります。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	一次救急医療と救急連携事業については、現状の啓発や体制等を維持していく必要があると考えます。また、二次救急医療体制については、市民の理解を一層求め、適正な医療に対する認識や貴重な医療財源の大切さを一人ひとりに知ってもらえるよう今以上に取り組んでいくことに努めます。これにより、スムーズな医療体制となるよう見直しを加えながら継続していく方向です。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	健康増進課	診療形態 (休日)内 科:午前10時から午後9時30分 小児科:午前10時から午後9時30分 歯 科:午前10時から午後9時 (夜間)内 科:午後9時30分から午前0時 小児科:午後9時30分から午前0時 (深夜)小児科:午前0時から午前6時	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	A	○	
	一次救急医療事業 (ソフト(任意))		233,610 (千円)					
2	健康増進課	「救急医療協議会」については、関係機関(県立医大附属病院、橿原地区医師会、橿原警察署、奈良県広域消防組合)が集まって開催し、救急医療体制の充実と円滑化について討議する。 また、市民に対して広報やチラシを通じて、救急医療の適正化を訴えている。各市町村だけで対応出来ない産婦人科一次輪番体制を県主導のもと、各市町村も参画し、負担金を拠出している。	1 拡大する	b	拡大する	D	○	
	救急連携事業 (ソフト(任意))		3,906 (千円)					
3	健康増進課	市内3病院及び市外3病院で、外科及び内科について、輪番制の二次救急を実施している 平日18時～翌8時 土曜日13時～翌8時 休日(年末年始)8時～翌8時	1 拡大する	b	拡大する	C	○	
	二次救急医療事業 (ソフト(任意))		66,716 (千円)					
4	健康増進課	平成5年度より、民間病院(平成29年度は、市内3病院・市外3病院)の輪番体制による、二次救急医療体制を整備し、市民の安心を図っているが、受入状況は橿原地区外が約4割を占め、市民が地区外に回される状況も続いている。その上、二次輪番体制への予算は毎年約7,000万円である。地区外患者割合及び従事者の実態情報から考えて、中和医療圏の8市町村(橿原市・大和高田市・御所市・香芝市・葛城市・広陵町・高取町・明日香村)で広域に取り組んでいく。	1 拡大する	b	拡大する	B	○	
	二次救急医療事業における広域連携 (ソフト(任意))		2,223 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	一次救急医療事業								
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実						
	総合戦略の 位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる						
		基本的方向	②	「医学」を基礎としたまちづくり(MBT構想の展開)						
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	休日夜間応急診療所運営費								
事業の開始年度	昭和	49	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	一次救急医療患者			事業の 内容説明	診療形態 〈休日〉内 科：午前10時から午後9時30分 小児科：午前10時から午後9時30分 歯 科：午前10時から午後9時 〈夜間〉内 科：午後9時30分から午前0時 小児科：午後9時30分から午前0時 〈深夜〉小児科：午前0時から午前6時					
事業の 目的	急病など軽い症状の患者に対し、民間病院等の診療時間外にも適切な医療を提供することで、市民が安心して生活ができるようにする。									
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	説明	一次救急医療は市町村が担う事業ではあるが、運営を医師会などに委託することも可能かと考える。現行は医師会の形態上可能ではない。							
やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
	説明	休日・夜間深夜の時間外においてかかりつけ医院が開業されていない時間帯には急病などに対応できる場所はなく、市民の生命にかかわる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	休日診療所受診者数（医科・歯科）			12,302	14,000	11,926	14,000	14,000	
	活動指標②	休日診療所受診者数 うち小児受診者数			7,530	9,500	6,890	9,500	9,500	
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			236,723	233,813	233,610	234,020		
		歳入 (b)	受益者負担額			137,757	155,517	138,647	155,519	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			40,026	39,147	41,461	40,644	
		(a) - (b) = 一般財源			58,940	39,149	53,502	37,857		
正職員		従事者数（単位：人）			1.85	1.40	1.15	1.35		
		人件費 (c)			10,558	7,990	6,685	7,848		
トータルコスト (a) + (c)			247,281	241,803	240,295	241,868				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考	H29は人事異動に伴い従事者数減									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成19年度から小児深夜診療を毎日実施するようになり、橿原地区だけでなく、中南和地区の重要な役割も担っている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	軽易な風邪や発熱等の病気であれば、医療機関が休診・時間外の時きでも、休日夜間応急診療所で対応できるので、非常に安心感がある。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	薬剤の在庫管理を徹底するなど、経費の削減に努めているが、昨今の全国的な医師不足を受け、医師等の人件費が高騰する可能性がある。また、深夜診療はその経費に見合うだけの診療料を得ることは不可能である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	小児科については、深夜診療を毎日にしたため、かなり充実していると考え、内科の診療体制の整備が今後の検討課題である。 深夜診療の時間帯にもかかわらず、相当数の軽症患者が二次医療機関にかかっている現状であるので、一層市民周知を図り、休日夜間応急診療所に来ていただくことと、市民一人ひとりがかかりつけ医を持ち、適切な時間帯での受診を行っていただくことで、救急医療体制の適正化を図る。								
	修正行動 この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する	課内優先度	B	
	説明	病院等の診療時間外に医療を提供することで、市民が安心して生活できるよう続けて実施する。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	救急連携事業								
	担当部名	健康部		担当課名	健康増進課		課長名	川田 靖代		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2		福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	2		医療サービスと救急医療体制の充実					
	総合戦略の 位置付け	基本目標	3-2-4		安心して便利に暮らせるまちをつくる					
		基本的方向	②		「医学」を基礎としたまちづくり(MBT構想の展開)					
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	救急医療対策事業費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	二次救急医療患者			事業の 内容説明	「救急医療協議会」については、関係機関（県立医大附属病院、榑原地区医師会、榑原警察署、奈良県広域消防組合）が集まって開催し、救急医療体制の充実と円滑化について討議する。 また、市民に対して広報やチラシを通じて、救急医療の適正化を訴えている。 各市町村だけで対応出来ない産婦人科一次輪番体制を県主導のもと、各市町村も参画し、負担金を拠出している。					
事業の 目的	榑原市の救急医療について、関係機関が抱える問題を解消し、医療体制の円滑化を図る。									
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
		説明	救急医療は市の責務であり、その関係機関の連絡調整についても市が行なうべき事業である。							
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
		説明	機関の連携が取れず、救急医療体制が混乱し、市民生活に重大な支障が生じる。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	二次救急輪番病院患者受入数			6,557	6,000	6,222	6,000	6,000	
	活動指標②	二次救急病院受診者の内、帰宅者以外の割合(%)			18	20	21	20	20	
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			3,841	4,337	3,906	4,141		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			3,841	4,337	3,906	4,141		
正職員		従事者数（単位：人）			0.65	0.65	0.50	0.55		
		人件費 (c)			3,710	3,710	2,907	3,197		
トータルコスト (a) + (c)			7,551	8,047	6,813	7,338				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	帰宅者以外の重症者の割合が増加していることから見ても、二次診療として適正な診療が行なわれていきつつあることがわかる				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	救急（消防）から病院に至るまでの救急医療体制をトータルに検証することは、市民の安全・安心を確保する上で重要と考える。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
	説明		県の産婦人科一次救急体制を維持していくために、現状は必要最小限の経費で運営している。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		現在本市の救急医療で問題となっているものには、医師不足等市内の関係機関の努力だけでは解決できない問題もある。そのため県とも協力するなど広域的な対応が必要となる。				
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	軽症患者は一次救急、入院治療を必要とする患者は二次救急、高度な治療が必要な患者は三次救急と、救急医療を適正に受診することで、円滑な救急医療体制が構築され市民の安心・安全が守られる。そのためにも、一次～三次救急が連携し、市民への救急医療の正しい知識の啓発に努め、適正な受診へと繋げる。		

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	二次救急医療事業								
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実						
	総合戦略の 位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる						
		基本的方向	②	「医学」を基礎としたまちづくり(MBT構想の展開)						
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	救急医療対策事業費								
事業の開始年度	平成	5	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	二次救急医療患者			事業の 内容説明	市内3病院及び市外3病院で、外科及び内科について、輪番制の二次救急を実施している 平日18時～翌8時 土曜日13時～翌8時 休日(年末年始)8時～翌8時					
事業の 目的	急病や怪我などで手術や入院等が必要な患者に対し、民間病院の輪番による受け入れ体制を整備し、市民が安心して生活できるようにする。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
			説明	市民の生命を守るため、二次救急医療は欠かすことができないが、休日夜間応急診療所では施設・設備の面から受け入れできない。そのため、民間の医療機関に委託して実施することが適当である。						
	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	手術や入院等が必要な患者を受け入れる近隣の病院がなくなることにより、遠方の病院まで救急搬送されることになるため、患者の生命にかかわる事態が生じる。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標									
	活動指標①	二次救急輪番病院患者受入数			6,557	6,000	6,222	6,000	6,000	
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			69,298	69,987	66,716	69,762		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			6,422	6,497	6,422	6,485	
		(a) - (b) = 一般財源			62,876	63,490	60,294	63,277		
正職員		従事者数（単位：人）			0.95	0.55	0.55	0.50		
		人件費 (c)			5,422	3,139	3,197	2,907		
トータルコスト (a) + (c)			74,720	73,126	69,913	72,669				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	二次救急患者数はほぼ横ばいである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	身近に救急病院があることで、市民が安心して生活できるので、本事業の貢献度はかなり高い							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	説明		昨今の医師不足を受け、各二次救急病院においても医師確保が困難になっており、人件費が高騰し、本事業を維持するため、各病院から委託料の増額を求められる可能性があるが、広域化することでコスト削減が見込める。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		軽症患者については、一次医療機関で対応するように広報等で周知を図り、二次救急病院が重症患者に専念できる状態にする必要がある。 また、二次輪番体制の広域化や市外の医療機関にも協力を得ることで、輪番体制の維持に努める。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
4 廃止又は休止する			5 完了する							
		説明	二次輪番体制の広域化を進めていくことで、委託料の削減と、より市民が安心して生活できる環境を整備する。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	二次救急医療事業における広域連携								
	担当部名	健康部		担当課名	健康増進課		課長名	川田 靖代		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実						
	総合戦略の 位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる						
		基本的方向	②	「医学」を基礎としたまちづくり(MBT構想の展開)						
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	救急医療対策事業費								
事業の開始年度	平成	28	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	二次救急医療患者			事業の 内容説明	平成5年度より、民間病院（平成29年度は、市内3病院・市外3病院）の輪番体制による、二次救急医療体制を整備し、市民の安心を図っているが、受入状況は橿原地区外が約4割を占め、市民が地区外に回される状況も続いている。その上、二次輪番体制への予算は毎年約7,000万円である。地区外患者割合及び従事者の実態情報から考えて、中和医療圏の8市町村（橿原市・大和高田市・御所市・香芝市・葛城市・広陵町・高取町・明日香村）で広域に取り組んでいく。					
事業の 目的	急病や怪我などで手術や入院等が必要な患者に対し、民間病院の輪番による受け入れ体制を整備し、市民が安心して生活できるようにする。									
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	2 二次救急医療体制については行政が、市町村民（県民）のための安心・安全のために取り組んでいる。しかし、市町村によって体制が異なり、地域差があるのが現状であり、効率よく救急患者を広域的に受入れることができるよう救急医療体制を構築していく。								
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	現在の橿原地区の二次救急輪番病院を受診する患者のうち、約半数が他の地区の患者であり、また、受け入れ要請患者の約3割を処置中や専門外の理由で断っていることから、橿原市民の安心・安全の確保が難しくなる。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	二次救急輪番病院患者受入率				90%	77.5%	90%	100%	
	活動指標①									
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)				889	2,223	179		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）				670	1,109		
		(a) - (b) = 一般財源				219	1,114	179		
正職員		従事者数（単位：人）				0.65	0.60	0.55		
		人件費 (c)				3,710	3,488	3,197		
トータルコスト (a) + (c)				4,599	5,711	3,376				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	中和医療圏内の市町村の担当間で、二次救急医療輪番体制の実態・問題点・今後の方針等について協議する場を設定し、検討をしているところである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	二次救急医療輪番体制の広域化を図ることで、受け入れ率が改善することにより市民が安心して生活でき、本事業の貢献度はかなり高い							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	昨今の医師不足を受け、各二次救急病院においても医師確保が困難になっており、人件費が高騰し、本事業を維持するため、各病院から委託料の増額を求められる可能性があるが、広域化することでコスト削減が見込める。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<ul style="list-style-type: none"> 行政間でスムーズに連携できれば、医療機関とも広域的に連携することができ、3 6 5日の二次救急輪番体制の整備や医療機関での適切な医師の配置等の運営に関しての事務効率を向上させることができる。 二次救急輪番体制を広域化することにより、適切に二次救急輪番病院や医師を配置することができ、処置中や専門外の理由で断ってきた患者を効率的に広く受け入れることが可能となる。そのことにより、市町村民の安全で安心できる医療体制の確保に繋がり、8市町村全ての施策目標の達成に繋がる。 							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	二次輪番体制の広域化を進めていくことで、委託料の削減と、より市民が安心して生活できる環境を整備する。					